

クルマアツバ亜科 <HERMINI INAE>

- 121. *Simplicia nippona* Butler
オオアカマエアツバ 29.V.1997,1♂
- 122. *Zanclognatha fumosa* Butler ウスグロアツバ
16.VI.1996,2♀
- 123. *Herminia tarsicrinalis* Knoch
トビスジアツバ 6.VI.1997,1♂
- 124. *Hipoena fractalis* Guenee
オオシラナミアツバ 24.VII.1997,1♂

トラガ科 AGARISTIDAE

- 1. *Maikona jezoensis* Matsumura マイコトラガ
(Fig.4) 18.IV.1996,1♀

早春に発生する種で、兵庫県レッドデータブックのCランクに分類されている。兵庫県は分布の西限域とされ、県下の産地は神戸市と淡路島に限られていた。なお、岡山県瀬戸町(宇野,1995)でも分布が確認されている。

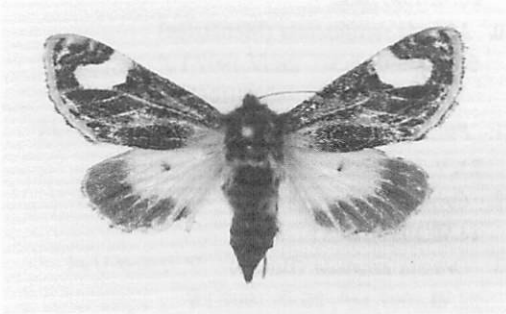


Fig.4. *Maikona jezoensis* Matsumura
マイコトラガ

以上、157種を追加する。ニセオレギエダシヤクを削除するので、三濃山山麓、相生市瓜生での蛾の種類数は前回の報告とあわせ、409種となった。なお、夏から秋にかけてと冬期が十分調査できていない。さらに機会があれば調査を行いたい。

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

但馬で採集した注目すべき蛾

柴田 剛

1997年4月に豊岡市に単身赴任して以来、自宅のマンションに飛来するものを中心に、但馬地域の蛾の採集を始めた。その中で、これまでに兵庫県下での採集記録の少ない種について報告する。これらの同定を行っていただくとともに、兵庫県下の過去の記録をご教示くださった高島昭氏に厚くお礼申し上げます。

- 1. *Ilema nachiensis* (Marumo)

ナチキシタドクガ

城崎郡竹野町森本 alt.60m, 19.VIII.1998 1♀
20.VIII.1998 1♀

局地性の強い少ない種(兵庫県版レッドデータブックCランク)で、県下の記録は高島氏により取りまとめられている¹⁾が、神戸市、宝塚市、妙見山、三日月町、出石町、柏原町、北淡町、南淡町となっている。

- 2. *Xylopolia bella* (Butler)

クロスジキリガ

豊岡市正法寺 alt.10m, 5.IV.1998 1♂

早春に1回出現するキリガの仲間で、比較的県下の記録が少ない。これまでの県下の記録は、川西市²⁾、猪名川町²⁾、上郡町³⁾である。

- 3. *Catocala hyperconnexa* Sugi

アミメキシタバ

豊岡市正法寺 alt.10m, 25.VIII.1998 1♂

やや局地的な種(兵庫県版レッドデータブックCランク)で、前出の高島氏の報告¹⁾によると、神戸市、宝塚市、猪名川町、三日月町、南淡町の記録がある。

- 4. *Dysgonia mandschurica* (Staudinger)

タイリクアシブトクチバ

豊岡市正法寺 alt.10m, 16.IX.1998 1♂

全国的に見ても局地性の強い種であり、これまでの県下の記録は、氷上郡⁴⁾、氷上町⁴⁾、三日月町⁵⁾である。

- 5. *Calyptra lata* (Butler)

キンイロエグリバ

城崎郡竹野町森本 alt.60m, 23.VIII.1998 1♀
 青森県から兵庫県にかけての主として日本海側の
 地域と九州の阿蘇で記録があるが、県下の記録は猪
 名川町⁶⁾、柏原町⁷⁾と少ない。

6. *Hepatica nakatanii* Sugi

ナンキシマアツバ

豊岡市正法寺 alt.10m, 1.VII.1998 1♂
 暖地性の蛾で、県下の記録は少なく姫路市⁷⁾と南
 淡町⁸⁾だけである。

<参考文献>

- 1) 高島 昭(1996) 兵庫県版レッドデータブ
 クの蛾 きべりはむし 24(2); 35-44
- 2) 夏秋 優・佐々木 昇(1994) 能勢地方の蛾

(VI) キリガ(その3) Crude 39; 16-25

- 3) 高島 昭(1997) 上郡町で採集した蛾(1)
 きべりはむし 25(1); 31-38
- 4) 山本 義丸(1996) 兵庫県氷上郡地方の蛾類
 (1) きべりはむし 24(2); 1-13
- 5) 川副 昭人(1987) 佐用郡三日月町の蛾覚え
 書 てんとうむし 10; 1-10
- 6) 夏秋 優・佐々木 昇(1982) 能勢地方の蛾
 (I) 上阿古谷・夏の蛾 Crude 23; 1-37
- 7) 高島 昭(1997) 姫路市広嶺山の蛾(1)
 てんとうむし 11; 65-69
- 8) 藤平 明(1987) 南淡の蛾(自刊)

(SHIBATA TAKESHI 豊岡市正法寺字堂屋敷425-6)

再度山のキベリハムシの多発生について

山口福男・近藤伸一

キベリハムシが再度山中で局地的に大発生しているのを観察したので報告する。

最初に観察したのは神戸市森林植物園の福本市吉氏で、1997年春から山中のビナンカズラに多数の幼虫が見られ、7月上旬には例年になく多くの成虫が羽化したとの報告を山口が受けた。この年は確認の機会がなくてそのままになっていたが、今年(1998)6月に福本氏から幼虫が異常な程に大発生していることを知らされた。そこで成虫の羽化期を待って7月1日に福本氏の案内で山口が1回目の現地調査を行った。2回目は5日に山口と近藤と2人がかりで、3回目は7日に近藤が調査した。

1回目の調査結果は、成虫数が多すぎて到底数えきれないと判断し、一番簡単な推計方法で生息数を求めた。キベリハムシの成虫はビナンカズラの藪のどの部分を見ても同程度の数で、昆虫学の教科書に書いてあるようなポアソン分布とか負の二項分布ではなく、平凡な均一分布と見えた。そこで一部分の生息数を数えて全体を推測することにした。さてビナンカズラの藪は、横幅約4.5メートル、高さ約3メートル、厚みは2メートルであった。藪の片面、横幅約50センチメートル、手の届く高さまでの範

囲で個体を採り、捕虫網に投げ入れて数えた。総数54であったので、単純に18倍して972の数値を得た。

2回目は藪の下に白色のビニールシートを敷いて、片面全域で叩き落とし法で落下させ、落ちた成虫を数えながら一匹も残さないようにポリ袋に収容した。463匹採集したが調査しなかった面にも同数いたとして2倍し、総数を926と算出した。調査後全ての成虫をもとにもどしたが、このうち200匹の前ばねに白いエナメルでマークしておいた。

3回目は見取り法で、前ばねの見える固体を数え白いマークの有無を確認した。64匹のなかにマークのあったのは6匹であった。この数値から計算された成虫数は2,033となった。

3回の調査の結果は、直接数えた場合1回目と2回目は大差なく900匹あまりの計算値であったが、マーク法では2,000となり倍以上の数値を示した。

昆虫の密度調査ではこれくらいの差はよくあることであるが、ことがキベリハムシなるが故に実数をもっと絞ってみたいのがマニアの人情であろう。成虫の行動は鈍重で、人の気配で葉裏にかくれることはなく、振動で落下するが飛び立つことはない。また成虫はビナンカズラの葉を新旧の差なく摂食する